

CLC からしだね書店便り

2025 April

no.52

4

* 今月のご案内 *

- ① 連載「歴史と対話し歴史に学ぶ」第4回
- ② カフェトリアングル 季節限定ドリンク
アイスカフェオレのお知らせ
- ③ 森住ゆき 和紙ちぎり絵原画展のご案内……銀座教文館3Fにて
- ④ 読書感想本『嫌な気持ちになったら、どうする？
——ネガティブとの向き合い方——
「だから」と「にもかかわらず」を分けるもの——
- ⑤ 書店員の今月のコラム『～貧しさの中のワクワク～』

CLC からしだね書店では…

- ① キリスト教書だけでなく、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落 でかわいい雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。ドリンクを片手に、本をお楽しみください。
- ⑤ 古書のコーナーもあります。ほりだしものあります。
- ⑥ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人が出会い、つながる「対話」の場を提供します。



CLC からしだね書店 & カフェトリアングル
営業時間 11:00-17:00
定休日 日曜日と年末年始（※祝日も営業）
毎月第3木曜日は書店のみ営業

好奇心旺盛な森下有一（高一）と歴史に詳しいけれど人間関係を築くのが苦手な叔父山田はじめ（三六才）が、パソコンやラインでいろんなテーマについて話し合っています。「真理」は強制できない、その根拠は何か、ルターはそれをどう考えたか。これが今回のテーマです。



連載第四回

良心の自由 —「真理」は強制できるか？



山田はじめ

おかえりなさい。ドイツの旅はいかがでしたか。

森下有一

母がベルリンの知人に会う用事があったのですが、ちょうど夏休みなので、ぼくも連れて行ってくれました。ベルリンで四泊、バッハの生誕地であるアイゼナハで三泊、ヴュルツブルクで二泊しました。ベルリンからは日帰りでヴィッテンベルクに連れて行ってくれました。アイゼナハからはワイマルにも行きました。

はじめ

すごい密度ですね。どこが印象に残っていますか。

有一

うーん、やっぱり、アイゼナハの郊外ヴァルトブルク城かな。駅近くのホテルから旧市街を通って、整備された森の中を四〇分ほど歩いたら山の上にある城に着きました。朝出かけたので、森の中ではほとんど人に出会わず、ちょっと不安になりましたが、帰りバッハ博物館に寄りまして、マルティン・ルターがこの城で新約聖書のドイツ語訳をしたと母から聞きました。その部屋も見ましたよ。

一五一七年に宗教改革開始、その後教皇レオ十世による破門、そして皇帝カール五世によるヴォルムスの帝国議会への召喚と帝国追放令の宣告。その直後に、彼の領主でザクセン選帝侯フリードリヒ賢公によってこの城にかくまわれたのですよね。

はじめ

一五二二年四月一七日にルターは皇帝や諸侯たちの前に出廷しま



◀ヴィッテンベルク城教会北側 左端扉『九十五箇条の提題』レリーフ

す。約百年前ヤン・フスが皇帝によって公会議に呼び出され処刑されているので、ルターは死をも覚悟していたようです。自らの主張の撤回を迫られますが、翌日、はっきりとそれを否定します。記録によると、「聖書の証言が明白な理由と根拠によって納得させられない限り、聖書に服し続ける」「私の良心は神の言葉にとらえられている……良心に反したことをするのは、確実なことでも、得策でもない」と証言しています。

有一

前から疑問に思っていたのですが、聖書と神の言葉とはどう違うのですか。

はじめ

いろいろな考えがあるようですが、初期のルターに関して言えば、ほぼ同じ意味で使っていると思います。ただ力点に違いがあって、文書としての性格、規範的（正典的）性格を強調するときは「聖書」という言葉を使うことが多いようです。「神の言葉」はしばしば福音という言葉に置き換えられ、神の人間への動的な語りかけ、とりわけ救いをもたらすキリストを宣べ伝えるという特徴が強調されるようです。

有一

なかなか聞き慣れない言葉が出て来て、難しいですね。

はじめ

詳しいことは、ルターの信仰理解と関連するので、別の機会に話し合います。ルターのその証言で重要なのは、良心という言葉を使っていることです。ルターは、文書と



有一

よかったですね。ルターは喜んでしょう。

はじめ

いいえ、反対です。改革と同時に教会の聖画像が破壊されたり、混乱が起こったので、彼の領主ザクセン選帝侯はルターに戻ってくるように命じます。翌年三月、ヴィッテンベルクに戻ったルターは、改革をいったん中止させます。

有一

どうしてですか。混乱が起こったからですか。あるいは、選帝侯の意向を気にしたからですか。ヴォルムスのルターからは、想像しがたいですね。

はじめ

混乱は関係していますが、理由はもっと深いところにあります。それが、先ほど触れた良心の自由と関係します。ルターは戻ると直ぐに八日間の連続説教をします。ミサなど間違った儀式が長く続いたので、それが正しいと思い、改革が正しいことを良心に確信させることができなくて多くの人がいる。たとえばルターにとって正しいこと、真理であっても、そのような人々の良心を踏みしめて強制的に改革することはよくない。そして、ルターは次のように言います。

「人間の」言葉では耳にしか達することはできず、心には至り得ない。人は信仰を心の中に注ぐことはできないので、



◀ヴァルトブルク城



▲ルターが説教をしたヴィッテンベルク市教会内部



▲ヴァルトブルク城内ルターが新約聖書ドイツ語訳をした部屋

カフェトライアングルから
季節限定メニューのお知らせ

Cafe Triangle

アイスカフェオレ



ホット
カフェオレも
あります!

今年も
あつ夏が
やってくる

期間限定 ¥400 (税込)

誰も信仰へと強制されるべきではない。…ただ神のみが、ご自身の判断と御心に従ってそのことをなさり、「神の言葉」を人々の心にのち溢れるものとなる。それ故、人は神の言葉を自由に働かせしめ、私たちの業を加えてはならない。……私たちは「神の」言葉を説教すべきであって、結果は神にゆだねなければならない。」

ルターは、ひとりひとりの中には、神の言葉しか触れることができない領域がある、と考えていました。今風に言えば、そこに一人一人の尊厳がある。たとえ正しいこと、真理であつたとしても外から強制することは、他者の良心の自由を踏みしめることになる、と主張しました。熱心な人々の中には、自分が真理だと思つたことを人に強制してでも実現することが神のみに沿ふことだと考える人がいます。ヴィッテンベルクでもそのような人々がいました。

良心の自由には、自己の内面的自由の主張と他者の内面的自由の擁護という二つの側面がありますが、真理の名のもとに、往々



中谷博幸 (なかにひろゆき)
1953年奈良県生まれ。香川大学名誉教授。主な研究対象はヨーロッパ文化史、特にドイツ近世キリスト教文化。

1640年頃のアイゼナハ
後方はヴァルトブルク城



にして後者の自由は無視されるか軽視されることがあります。そういう点で、ヴィッテンベルクのルターの行動は、良心の自由を考へる上で、ヴォルムス帝国議会の主張に劣らず、重要だと思ひます。真理は強制できない。なぜなら、人間の心の中には、神の言葉以外のいかなるものも触れることのできない不可侵の部分がある、この主張は自由の歴史上、画期的です。古代ギリシアにはそのような考えはないと思います。

有一..

これは人権ということも関連するのでしょうか。ルターにとって、良心と神の言葉が重要だということは、分かるような気がします。この前調べたラス・カサスとも関連しますね。

ぼくはルターについてはほとんど知らないのですが、彼は信仰による救いを主張したということは、世界史でも教会でも聞いています。良心の自由と信仰による救いとは関係しているのでしょうか。これは母から聞いたのですが、おじさんは、大学で比較文化論を専攻して、ルターと親鸞についても研究したことがあるようですね。ぼくは最近『歎異抄』は読みました。ルターと親鸞についても是非聞きたいです。

はじめ..

良心、神の言葉、信仰はルターにあつて密接に関連しています。ルターは『キリスト者の自由』でそれを詳しく扱っています。有ちゃんが『歎異抄』を読んだことがあるなら、是非『キリスト者の自由』も読んでみてください。また感想を聞かせてください。姉さんによろしく。

【つづく】

学生時代、私は飲食店でアルバイトをしていました。たくさんのお客さんと接しているうちに、彼らの態度や話し方は、大体一つの「調子」に分類できることに気がつきました。

その一つを私は「配慮のある調子」と呼んでいます。これは、「相手を嫌な気持ちにさせないようにしよう」という気遣いが感じられる態度で、こういう調子の人と話していると、別に個人的な話をしているわけでもないのに、なんとなくいい気持ちになり、仕事も頑張ろうという気になります。

他方で、「配慮のない調子」で話す人もいます。こういう人の話を聞いていると、それがただの注文のやりとりであるにもかかわらず、思わずため息をつきたくなるような、どんよりとした気持ちになります。彼らから感じるのは、「話し相手の気持ちを害してやろう」という意気込みや積極的な攻撃性というよりはむしろ、ネガティブな感情に巻き込まれ、乗っ取られた人の、



「嫌な気持ちになつたら、どうする？」

中村英代 著 ちくまプリマー新書 定価880円(税込)

—ネガティブとの向き合い方—

「だから」と「にもかかわらず」を分けるもの



主体性のなさ・受け身の態度です。

人間である以上、「配慮のある調子」で人と接する人たちも、時にはネガティブな気持ちになることがあるはずですが、にもかかわらず彼らは、見ず知らずの店員への配慮をもって話します。

一方、「配慮のない調子」で話をする人たちは、自分はネガティブな気持ちを持っているのだから、その当然の権利として、相手にも自分のネガティブな気持ちが伝わるような話し方をして、も許される、とでも言いたげに聞こえます。

こんな経験を繰り返すうちに、私は一つの疑問を抱くようになります。ネガティブな気持ちになったときに、「だから」他人を傷つけてもいいと思う人もいれば、「にもかかわらず」相手を気遣おうとする人もいます。両者を分けるものは一体何なのでしょう。か言い換えると、ネガティブな気持ちに行動を支配されてしまう人と、それに囚われずに主体的に行動できる人

POST CARD



森住ゆき和紙ちぎり絵原画展

銀座教文館 3F ギャラリーステラ

2025年4/26(土)～5/6(火)

10:00～19:00/ 入場無料

日曜日のみ13:00から

大頭眞一著「こどものための神のものがたり」の原画をメインに、色彩豊かで心あたたまる作品群、約40点を展示します。

●著者 大頭 眞一 牧師トークライブ

4月28(月)・29(火)ともに 15:00～



「こどものための神のものがたり」
発行 CLCからしだね書店
定価 1000円+税 発売(株)ヨベル



銀座教文館
公式ホームページ

※作者在廊日時など詳細はこちらからご確認ください。



との差はどこにあるのでしょうか？

『嫌な気持ちになつたり、どうする？』の著者で社会学者の中村英代さんによると、現代社会は、「ネガティブに暮らす社会」です。うらみや怒り、許せない気持ちなど、ネガティブな感情を素直に他者に伝えると、「仕方ないよ」「もう昔のことじゃん」「怒るだけ損」といった言葉で、なんとなく否定されてしまいます。誰にも受け止められなかったネガティブな感情は、自傷や他害といった暴力的な形で表出されざるを得なくなります。(90・94頁)。

なぜ私たちはネガティブな感情をうまく伝え合つことができなくなっているのでしょうか。中村さんがその要因として挙げるのが、現代人の持つ「意志の力への信仰」です。私たちは無意識的に、いろいろなものを意志の力でコントロールすること、美徳とみなしています。そのような価値観は「すべき」「してはいけない」といった規範意識として私たちに刷り込まれています。

中村さんの研究対象である摂食障害やアルコール依存に関し

い込んでいきます。

以上を考え合わせると、ネガティブな感情と向き合つための逆説的なアドバイスが導き出されます。すなわち、「ネガティブな感情を意志の力で無くそう」としたりコントロールしようとすると、かえってネガティブな感情が持つ影響力は大きくなり、あなたの方がそれに支配される。むしろその存在を認め、コントロールを手放すことで、ネガティブな感情と平和的に共存できるようになり、結果的にその影響力は小さくなる」というものです。

「ネガティブな感情は意志によって克服されるべきだ」と考えれば(そんなことは不可能ですから)ネガティブな感情を持っているということ自体が、別のネガティブな感情を生じさせてしまい、そうして生じたネガティブな感情を、また意志によって抑えつけないとして失敗する…という悪循環にはまってしまいます。この連鎖を断ち切るためには、どこかで自分の感情をまるごと肯定するという決断をしなければなりません。中村さんは、このまるごとの肯定を、「合ってる」という言葉で表現します。

て言えば、意志の力ではコントロールできない身体的な衝動(飲酒欲求など)を意志の力で抑え込もうとして失敗するところから苦しみが生じます。ここでは、意志の力に過大な期待をする価値観のせいで、身体的なものや感情的なものなど、理性や意志では割り切れないものが無視されてしまっています。

ネガティブな感情に関しても同じことが言えます。「怒り、悲しみ、恐れなどの感情は嫌なもの、困ったものとして封じ込められがちですが、感情もまた「意志の力」で抑え込むことのできないもののひとつです」(100頁)。それにもかかわらず、私たちはネガティブな感情をコントロール可能なものと錯覚し、それを抑え込もうとし、また周囲からもそうするように期待されます。

しかしネガティブな感情にもまた存在する理由があったはず。それを意志の力でなかったことにするという試みは、そもそも不可能であり、同時に自己否定的でもあります。ネガティブな感情の経験そのものが二次的なものだとなると、その経験を否定することによって生じる「二次被害」が、さらに人を追

自分のために心と体が動いてくれているのだと思えば不安も悲しみも怒りも、忌まわしいものと思わないようになります。痛み、恐れ、怒り、欲望を感じたら「よし、いぞ。自分生きてるぞ」と声援を送ることができます。「こんなことを感じる自分は、おかしいのかも」という自己否定の思いが湧いてきても「大丈夫、合ってる。私の感じ方は合ってる」と自分を信じて励ますことができます。

すると、どのような感情であれ誰かを傷つけず、自分を傷つけず、つまり社会性を損なわない範囲で表現するという課題がおのずと浮かびあがってきます。

爆発でもなく、我慢でもないところで、感情を表現していけるとよいのです。(97頁 太字原文)

自由とは、すべてを意志の力でコントロールすることではありません。私たちが、自分の意志ではコントロールできないネガティブな感情を抱えている「にもかかわらず」、自分という制約を越えて、他者への配慮へと向かう選択ができるのは、私たちが自分の中にあるネガティブな感情や意志の力では割り切れない存在を「合っている」と認めることができたときなのです。

聖書に示されている「神様が創造された人間の価値」、神様目線で「高価で尊い」存在としての人間の価値はまさに普遍的なものと言えるでしょう。そこには肌や目の色、生まれた場所による差は無く、差別や偏見は後から人間が勝手に作り出した移り変わる価値観ですが、それらに翻弄される弱さを、私自身も自覚させられています。

そういうことを考える時に、人間の価値観がそれぞれの時代背景や社会の状況、テクノロジー等の影響をいかに受けているか最近つくづく実感しています。

今年度はミッションからしだねの法人設立から20年の節目となります。

20年という年月を考える時にいつも思うことがあります。私は1965年生まれです。第2次世界大戦で日本がポツダム宣言を受諾して終戦を迎えたのが1945年なので、戦後わずか20年目に

所の空き地に集まり、日が暮れるまで遊んでいた。稲刈り後の田んぼや空き地、工事現場など遊ぶ場所はいっぱいあり、近所の家のガラスを割ることもけっこうありました。今思えば怒られつつも、なんとなく許容されていた寛容な時代だったと思います。

子どもなりに家計の事情も察しているところもあり、ねだることはしませんでした。市場の広告にグローブが出ていると、赤鉛筆で丸をつけて見るとところに置いてアピールしましたが、そう簡単に手に入るわけでもありませんでした。親も子供の気持ちを分かりつつも家計のやり繰りは大変で、子どもたちそれぞれのタイミングや不公平感を考えて用意してくれていたように思います。

ですから、買ってもらったものは鮮明に記憶に残っていて、その時のワクワク感も思い出します。

今も、個人や家庭の事情はそれぞれあるでしょうが、社会全体を見渡すと豊かな時代だと思いま

今月の
書店員のコラム



～貧しさの中のワクワク～

生まれたわけです。わずか20年、たった20年、もう20年、ようやく20年…皆さんは20年という時間をどんな風に感じられますか？

一方、最近の20年の変化のスピードがあまりに早く、特にIT分野の進歩は凄まじく、既に取り残された感の強い私は、ついて行こうという気持ちすら失せ、むしろ抗っています。

幼いころの記憶では社会全般的に貧乏でした。(私の周りだけでもありませんが…) 誕生日だからと言ってプレゼントを買ってもらえるわけでもなく、ただ夕飯のおかずのリクエストに応えてもらい大喜びしていました。初めて買ってもらった自転車は東寺の骨董市(弘法さん)で売られていた中古でしたがめちゃくちゃうれしかったことを覚えています。家族は一つひとつ増えていく家電にワクワクしたものです。

小学校1年生の時にクラスでチームを作って野球を始め、「今日は何組と試合や!」と放課後は近

す。物質的には何でも手に入り、便利の度合いも格段に違ってきています。

家の固定電話も全ての家庭にはなく、「呼び出し電話」と言って、近所の電話のある家の電話番号にかけて呼び出してもらった。「おばちゃん、○○さんという人から電話入ってるよ!」と呼びに行く、そんな光景が特別ではない時代でした。

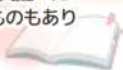
小学生でもスマホを持つ現代、その真ただ中に生まれ育った子にとっては想像もできないことでしょうし比較のしようもないことです。良い悪いで判断することでもありませんが、その時代を生きた者として個人的に感じることは、子どもの頃に感じたワクワクを今の子どもたちは味わっているのだろうか? 鮮明にのみがえる嬉しかった記憶をどれほど心に蓄えられているのか?

もっとワクワクを味わって欲しいと思うのですが、これも価値観の押し付けかもしれませんね…。

書店員N

古書献本のお願い

たいへん申し訳ございませんが、送料をご負担いただくとありがたいです。(受付できないものもありますので事前にお知らせください。)



【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本(多少、書き込み等があっても、大丈夫です)
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし(料理、健康、経済等)にかかわる本
- 5 小説(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)
- 6 漫画(人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません)

百科事典・辞書・開封済みのCD・DVD・月刊誌・週刊誌、自分史・教会の記念誌などは受け付けておりません

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX：075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒に以下の内容を記入したメモをお願いします】

- ①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。

【献本感謝】

(ご寄贈者) 伊藤容子様、佐野秀隆様(順不同)

3月の古書の収益は34,470円でした。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、書店で働く障がい者の工賃になります】

献本くださった方のお名前を書店便りにご紹介させていただきたいと思います。匿名ご希望の方は、お知らせください。ご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

編集後記

◆桜の木が「私はここにいます！」と主張するかのように山の斜面の一部を薄いピンクに染めています。この便りが皆様のところに届くころには、お花見も終わっていることと思います。◆新しい年度に入りました。トランプ大統領の、根拠のよくわからない数字を根拠にした関税引き上げで、世界はますます混乱し、これがまた本やグッズの製造販売、流通にも影響するのではないかと、心配しています。◆新しい職場、新しい学校、新しいクラス…皆さまの春に、神様の祝福がありますように…



◀京都ヨルダン社のスタッフの皆さん

▲これからがんばって！

◆さて、長年にわたり京都の中心地でキリスト教書店を開いておられた京都ヨルダン社が、4月末をもって、店舗を閉められることになりました。旧CLC京都店時代には、店が近かったこともあって、お互いに助け合いながら店を運営しておられたと聞いています。なんとも寂しいことですが、場所を移動して、店舗を持たない外販専門の拠点として、引き続き営業されるそうです。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援B型事業所からしだねワークス
CLCからしだね書店&カフェ・トライアングル

〒607-8216
書店電話番号
書店メール

京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
075-574-1001 FAX 075-574-0025
clc@karashidane.or.jp



➡ CLCからしだね書店便りのバックナンバーはこちらから